

わかちこ「ちょっと待ってください！あっ、ここで何やら緊急速報が入ってきました！街で何者かが暴れ回っているようです！現場には末柄キャスターが向かってくれているということです！末柄キャスター！」
すーじー「はい現場の末柄です。私は今都内某所に来ております。こちらで不審な人物の目撃情報があったんですが…はっ！皆さん！あちらを見てください！」
みっく「ふえーあなたたちなにするんですかーだれかたすけてくださーい！」
あべりかさん「あらあらまあ、とびきり可愛いこちゃん見つけちゃった！美味しそう〜♪」
みっく「美味しそう…美味しそう…？」
あべりかさん「これは…世界征服に一步近づけそうな予感ね！」
ゆりりん「なあんびとたりとも〜！我々デストルドーには歯向かうことはできないのだー！
ハッハッハッ」
みっく「ふええええん」
すーじー「大変です！今まさに女性が襲われています！」
あべりかさん「おやおやおや？ちょっとちょっと！あっちに、清楚美人がいない！？」
ゆりりん「激マブなお姉さん！！」
あべりかさん「いっちまいな！」
(すーじーの悲鳴とみっくの鳴き声)
あべりかさん「いらっしやーい！」
みっく「わたしたちをどうする気ですか〜！」
あべりかさん「お前達は、我々デストルドーの人質となってもら」
みっく「人質〜？」
ゆりりん「そうだ！お前達を人質に取り！お前達は我々の手足となってもらののだ！」
あべりかさん「そうね！まずは手始めに、ハッシュタグ集えアイドルヒーローズを付けて沢山ポストして〜、トレンド一位にしようかな」
すーじー「そうですね！とっても大切です！トレンド一位にはしてほしいんですけど、でも無理矢理やらせるなんてひどすぎます！」
みっく「そうだそうだ〜！でも大丈夫！デストルドーなんて、アイドルヒーローズがやっつけちゃうんだから！」
すーじー「わー！」あべりかさん「いやん」
みっく「すーじーさん！一緒にアイドルヒーローズを呼びましょう！」
すーじー「そうね！」みっく「せーの！」
みっく・すーじー「たすけて！アイドルヒーローズー！！」
わかちこ「みなさま、恒例の寸劇…いかがでしたでしょうか？」

「ちょっと待ってください！あっ、ここで何やら緊急速報が入ってきました！街で何者かが暴れ回っているようです！現場には末柄キャスターが向かってくれているということです！末柄キャスター！」
「はい現場の末柄です。私は今都内某所に来ております。こちらで不審な人物の目撃情報があったんですが…はっ！皆さん！あちらを見てください！」
「ふえーあなたたちなにするんですかーだれかたすけてくださーい！」
「あらあらまあ、とびきり可愛いこちゃん見つけちゃった！美味しそう〜♪」
「美味しそう…美味しそう…？」
「これは…世界征服に一步近づけそうな予感ね！」
「なあんびとたりとも〜！我々デストルドーには歯向かうことはできないのだー！ハッハッハッ」
「ふええええん」
「大変です！今まさに女性が襲われています！」
「おやおやおや？ちょっとちょっと！あっちに、清楚美人がいない！？」
「激マブなお姉さん！！」
「いっちまいな！」
(すーじーの悲鳴とみっくの鳴き声)
「いらっしやーい！」
「わたしたちをどうする気ですか〜！」
「お前達は、我々デストルドーの人質となってもら」

「人質～？」
「そうだ！お前達を人質に取り！お前達は我々の手足となってもらうのだ！」
「そうね！まずは手始めに、ハッシュタグ集えアイドルヒーローズを付けて沢山ポストして～、
トレンド一位にしてみようかな」
「そうですね！とっても大切です！トレンド一位にはしてほしいんですけど、でも無理矢理やら
せるなんてひどすぎます！」
「そうだそうだ～！でも大丈夫！デストルドーなんて、アイドルヒーローズがやっつけちゃうん
だから！」
「わー！」「いやん」
「すーじーさん！一緒にアイドルヒーローズを呼びましょう！」
「そうね！」「せーの！」
「たすけて！アイドルヒーローズー！！」
「みなさま、恒例の寸劇…いかがでしたでしょうか？」